

台風第5号の接近に伴う農作物等の技術対策について

令和3年6月24日

農林水産部担い手支援課

現在、マリアナ諸島にある台風第5号は、北西に進んでおり、この後、進路を北東に変える見込みです。このままの予報で行くと、28日（月）に最も千葉に接近する見込みです。

今回の台風の影響により、前線の活動が活発になり、28日前後は大雨が予想されます。また、大気の状態が不安定になることから、降ひょうの恐れがあります。そのため、技術対策をお送りしますので、台風接近前に余裕をもって対策を行ってください。

海岸に近い場所などでは、塩害回避に事前に真水を準備しておき、降雨後に潮風が吹いた場合は、動力噴霧器等でできるだけ速やかに大量の水を散布し、葉に付着した塩分を洗い流しましょう。

1 施設等

<事前対策>

- (1) ビニールハウスは、外周を見回り、押えのバンドでフィルムをしっかりとめ、窓、出入口は閉めて固定する。できれば風当たりが強い外側の棟などを補強する。また、被覆資材に損傷箇所があれば、直ちに補修する。
- (2) ガラスハウス等では、窓、出入口を閉めて、しっかり固定する。
- (3) ハウスの周囲に風で飛ばされるものがないように、周辺を片付ける。また、排水状況を確認し、排水溝の整備に努める。

<事後対策>

- (1) 破損した場合は、速やかに補修を行う。
- (2) 施設周辺に湛水している場合は、速やかに排水溝を掘り、排水に努める。
- (3) ハウス内に雨水が流入した場合は、できるだけ速やかに排水し、水が引いた後に、ベッドを整形するとともに中耕する。
- (4) ハウス内に雨水が流入する等により、内部が多湿になって病気が発生しやすくなるので、防除指針に従い殺菌剤を散布する。また、薄めの液肥の葉面散布等により生育の回復に努める。

ただし、根の活性が低下するなど薬害が発生しやすい状態にあるので気をつける。

2 露地野菜

<事前対策>

- (1) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水に備える。
- (2) ネギ、未成熟トウモロコシ、果菜・葉菜類など茎葉の被害により大きな減収や品質低下が予想される野菜では、
ア あらかじめ土寄せをして倒伏予防を行う。

イ 支柱強度や結束部分の確認をして弱い部分は補強をする。

ウ 防風網や不織布などでべたがけをして茎葉や果実の傷みを防ぐ（資材が飛ばされないように注意し、台風通過後は速やかにはがす）。

（3）スイカ、メロンなどはトンネルが飛ばされないよう補強を行う。

＜事後対策＞

（1）速やかにほ場の排水を図る。

（2）栽培中の作物には、防除指針に従い殺菌剤を散布し病気の予防に努める。根の活性が落ちるなど、葉害が発生しやすい状態にあるので気をつける。

（3）栽培中の作物では、土壌の表面が乾いてきたら、追肥用化成などを用いて追肥を行い、軽く中耕を行うことにより、生育の回復を促す。

（4）強風や降ひょうによる傷口から病害感染のおそれがある場合は、薬剤を散布する。特に、今後の天候によって以下の病害の発生が懸念されるので注意する（カッコ内は病原菌の生育適温）。

炭疽病（22～28℃）、疫病（28～30℃）、べと病（20～25℃）、つる枯病（20～24℃）、褐色腐敗病（28～30℃）、軟腐病（30℃）

（5）すいか・メロンでは、収穫までまだ日数を要する圃場では薄めの液肥を葉面散布し、草勢の回復に努める。

（6）食用とうもろこしでは、収穫まで日数を要するほ場で倒伏した場合は丁寧に起こし、葉面散布の実施や速効性の肥料を施用して生育の維持・再生を図る。

（7）ねぎ類では、株が倒伏した場合、天候とほ場の状態の回復を待って、丁寧に起こす。また、株養成期の畑は、追肥等の管理を適期に行う。収穫期にあるにら畑では、葉の損傷がひどく、出荷が困難な場合は早めに損傷葉を刈取り処分し、新たに葉の伸長を促す。

3 果樹

台風対策

＜事前対策＞

（1）果樹全般

ア 支柱の取り付けと補強を行う。主幹には、竹や丸太などで三方から支柱を取りつける。

イ 主枝、亜主枝、側枝についても枝折れを防止するため支柱を取りつける。特に着果している場合は果実の重さで枝が折れたり裂けやすいため出来る限り支柱などで固定する。

ウ 多目的防災網を設置してある園では、押え紐や控え紐（網が風で飛ばされないように、所々に網から引いてある紐）の補強を行う。

エ 水田等排水の悪い園では、滞水しないようはけ口をつくっておく。

オ 潮風害に備えて事前に洗浄用の真水をタンク等に確保しておく。

(2) ナシ（ブドウなどの棚仕立ての樹種もこれに準ずる。）

- ア 多目的防災網の設置の有無にかかわらず、棚が上下して果実が落下するのを防ぐため、棚の所々に振れ止めを設置する。（事前にブロック、肥料袋に土を入れる、らせん杭等の棚を固定する道具を園内に準備しておく。）
棚から針金などたらし、重石をつけて棚が振れないようにする。
設置場所は樹と樹の間など揺れやすい箇所に重点的に設置する。
- イ 防風垣、防風網の補強整備をする。
- ウ 主枝、亜主枝、側枝を棚へ結束する。
- エ 排水条件の悪い園では滞水しないよう整備する。

<事後対策>

(1) 果樹全般

- ア 樹が倒伏したものは、無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せし支柱を立てる。
- イ 園の排水に心がけ、滞水した場合は速やかに排水を図る。
- ウ 多目的防災網の防風ネットが破損した園では、ただちに修理し、次の災害に備える。
- エ 収穫期を控えた果樹に農薬散布を実施する場合は、特に収穫前使用日数に注意する。

(2) ナシ

- ア 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い台風通過後、できるだけ早く殺菌剤を散布する。
- イ 落果した果実は早めに処分する。
- ウ 枝折れが発生した場合は、その基部から切除し、切り口に保護剤等を塗布する。

(3) その他落葉果樹

- ア 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い殺菌剤を散布し、病害感染を予防し、葉を健全に保つようにする。特にイチジクの疫病の発生の恐れがあるので注意する。
- イ 傷害果等は早急に園外に持出し処分する。

(4) ビワ

- ア 樹が倒伏したものは根が乾燥しないうちに無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せし支柱を立てる。
- イ 枝の折れたところはきれいに切り直し、切り口には保護剤等を塗布する。

(5) ミカン、中晩かん類

- ア 落葉があった樹は、被害の程度に応じて摘果により着果量を減らす。
- イ 強い風雨によりかいよう病や黒点病などの発生の恐れがあるので防除指針に従い、収穫前日数に注意して防除する。

降雹の対策（ナシ）

<事前対策>

多目的防災網を展張し、被害の発生を未然に防止する。

＜事後対策＞

(1) 薬剤散布

ア 葉や幼果が損傷している場合

防除暦を参考に、記載されている農薬を被害後2～3日経過時点で散布する（出来れば雨が降る前に）。

イ 枝や幹に被害がある場合

直ちに枝や幹の損傷部に保護剤等を塗布する。塗布が遅れると傷の回復が悪く、枯れ込みが多くなる。被害面積が大きい場合は、被害程度の大きい園や「幸水」園を優先する（※折れた枝は切り返してから、塗布する）。

(2) 被害樹の管理

ア 下記の被害程度に応じて着果量を制限する。

激甚園（残存している葉の損傷が70%以上、または、落葉30%以上）

⇒ 全幼果を摘み、樹勢回復に重点を置く。

甚園（残存している葉の損傷が50～70%、または、落葉程度30%未満）

⇒ 被害程度に応じた着果量調節

a 落葉程度30%の場合……平年の40～50%の着果量にする。

b " 20% " …… 60～70% "

c " 10% " …… 70～80% "

ただし、樹勢が低下している園では、被害程度に関わらず全幼果を摘む。

中～軽程度の園（葉の損傷はあるが、落葉はほとんど認められない）

⇒ 樹勢に応じて、着果量を加減する。

4 露地花き

＜事前対策＞

(1) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水に備える。

(2) 支柱の打ち増しやフラワーネットの点検・補強を行う。

(3) 小ぎく・アスター・けいとう・ひまわりなど、茎葉の被害により大きな減収や品質低下が予想される花きでは、防風ネットを張る。

＜事後対策＞

(1) 風により折れた枝や株は整理し、倒伏した切り花類は枝の曲がらないうちに無理のない範囲で早く立て直し土寄せする。

(2) 数時間滞水した苗物や鉢物は、その後乾燥ぎみに管理する。また、多湿により病気が発生しやすくなるので、防除指針に従い殺菌剤を散布する。

(3) 育苗中のものや定植直後のもので冠水被害を受けた場合、速やかに汚れを洗い流し、回復に努める。なお、回復の見込みがない場合は、除去し、苗があれば定植し直すか、再度播種準備を行う。

5 水稲

<事前対策>

(1) 排水路の詰まりの点検・補修を行い、冠水や滞水に備える。

<事後対策>

(1) 水稲の生育は幼穂形成期期～穂ばらみ期にあり、長期間の冠水（株全体が水につかる事）した場合は、水温が高いほど濁水によるほど被害が大きくなるので、早急な排水を行う。ただし、(3)の理由から、完全に落水してしまうのではなく、湛水状態とする。

(2) 白葉枯病の常発地では、浸水（葉鞘や穂が水面から出ている事）、冠水した場合に発生する恐れがあるので、薬剤防除を行う。

(3) 台風の通過後に乾燥した風が吹いた場合には、稲体の水分が蒸発し、急性萎凋症状が発生する恐れがあるので、湛水し水分を供給する。

6 大豆

<事前対策>

(1) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水に備える。特に水田転換畑では滞水しやすいので、排水溝を確実に排水路につなげる事や、畦畔を切る等で早急な排水対策を行う。

(2) これからは種を予定している場合、出芽時や生育初期の湿害は苗立ち不足や初期生育が著しく劣ることになるので、天候の回復を待って圃場が乾いてから播種を行う。

<事後対策>

(1) 土壤の乾燥を待って、中耕・培土等により草勢の回復を図る。

(2) 病害虫の多発が予想されるので、発生に注意して防除を行う。

(3) 冠水や滞水により、出芽時や生育初期に著しい湿害を受けた場合、まき直しも検討する。その場合、生育の遅れを補うため播種時期が遅くなるにつれて播種量を増やしていく。

7 落花生

<事前対策>

(1) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水に備える。

<事後対策>

(1) 台風後に病害、特に黒渋病が発生しやすいので、よく観察し、防除を行う。

(2) 土壤の乾燥を待って、中耕等により草勢の回復を図る。

8 そば

<事前対策>

(1) 収穫時期を迎えているそばについては、強風による倒伏や脱粒被害が想定されるので、子実の黒化率が低くても早めに収穫する。

- (2) コンバイン収穫で、子実の黒化率が70%未満での早めの収穫になった場合、茎葉の水分が高いため、詰まらないように刈り取り速度を抑えて収穫する。

9 畜産

<事前対策>

- (1) 畜舎の周囲に風で飛ばされるものがないように、周辺を片付ける。また、排水状況を確認し、排水溝の整備に努める。
- (2) 停電の発生に備え、発電施設がある場合は燃料の準備、試運転を行う。また、停電時の畜舎換気・飲水確保等の準備に努める。

<事後対策>

- (1) 台風通過後に、気温上昇の恐れがあるので、畜舎内温度に注意し、換気に努める。
- (2) 停電の発生状況に注意し、停電時は早めの対応に努める。
- (3) 飼料作物については、冠水や浸水などの被害を受けたほ場の速やかな排水に努める。